

# 令和4年度 OITAふるさと学習交流会

## 目的

- ①地域のよさや魅力、課題を発見
- ②持続可能な地域の在り方について考える
- ③学んだことを自らの生活や行動に生かす

## 期日 場所

令和4年12月17日(土)  
別府ビーコンプラザレセプションホール  
(世界農業遺産推進協議会共催)

### (1) ステージ発表(6校)

- |                         |  |
|-------------------------|--|
| ①中津市立本耶馬溪中学校            | 地域貢献のための登山道のリボン付け活動や店舗の手作り立て看板の設置                  |
| ②別府市立別府西中学校             | 温泉と竹工芸の魅力をまとめてCMをつくり、PR活動を実施                       |
| ③臼杵市立北中学校               | 他の観光地との比較を通じた臼杵の魅力再発見、市長への提案                       |
| ④佐伯市立東雲中学校              | 「上浦を活性化させるための私たちの提言」を上浦振興局に発表、海岸の清掃活動              |
| ⑤豊後大野市小中一貫教育校<br>朝地小中学校 | 地域の人々の温かさに応えるために、自分たちでできる地域貢献に向けた、名所の看板製作等のアイデアづくり |
| ⑥九重町立このえ緑陽中学校           | 魅力ある九重町にするための「町づくりプラン」を考えて町長に提言                    |



### (2) ポスター発表(5校)

- |             |                                       |
|-------------|---------------------------------------|
| ・宇佐市立北部中学校  | ふるさと学習と校区内の海岸清掃「ふるさとクリーン作戦」の取組        |
| ・別府市立青山中学校  | 「別府学」の学習をもとにした「課題」の発見とその解決策を探る取組      |
| ・津久見市立第二中学校 | 地元で働く方の思いや地元で採れる食材等、津久見市のよさをCMにまとめる取組 |
| ・竹田市立都野中学校  | 神楽に携わる方の思いを知り、実際に神楽に取り組み、伝統を受け継いでいく取組 |
| ・日田市立津江中学校  | 地域の方の協力による学びと伝統行事の継承等、地域の課題の解決策を考える取組 |



### (3) グループディスカッションの様子と生徒の感想

私たちの提言「持続可能なふるさとにするために、中学生の私たちにできること」

- 自分たちの地域の学校が個々に活動するのではなく、学校同士がつながって、地域ともつながって取り組んでいきたい。ユネスコ食文化創造都市であることを生かし、臼杵特有の食文化を広めたい。新しいものを生み出すことも大切だし、元からあるものを最大限に活用することにも取り組んでいきたい。(臼杵市立北中学校)
- 道路を建設するなど、大きなことはできないが、このような取組を続けていくことが大切だと思った。今日の交流会を通じて、人とのつながり、地域とのつながりが大切だと考えた。また、私たちも具体的な課題解決策を町や市に提言していきたい。(宇佐市立北部中学校)



■神楽について学んでいる学校、町長や市長に提案している学校があって、すごいと思いました。同じ地域のPR活動でも、観点や表現の仕方が違って面白かったです。

■自分の地域のよさを再発見することができたり、知らなかった他の地域のよさを知ることができてよかったです。大分のことをわかっているつもりになっていたので、もっとふるさとについて知り、考え、行動に移していきたいです。

■私たちの学校と同じように、生徒数が少なかったり、観光業が伸び悩んでいたりする地域がたくさんあって驚きました。他校の発表を聞いて、もっとできることがたくさんあることがわかりました。

交流会の様子は令和4年度中に、教育庁チャンネルで公開する予定です。

## 参加校と内容等

## 【テーマ】 故郷を愛する

### 【発表の見所やポイント】

私たちの学校では、毎年修学旅行で地元本耶馬溪の魅力をPRする活動を行ってきた。しかし、コロナ感染症が広がり、これまで行ってきた活動をそのまま実施することが難しくなり、中止することも考えたが、形を変えてできないだろうかという声があがり、試行錯誤のなか、PRチラシを作り、修学旅行先の店に置いてもらうという形ができあがった。そのチラシを作る過程で、自分たちが地元のことをあまりよく知らないこと、地域の人を知らないこと、さらにはもっとよい町にしていきたいという想いが生まれ、新しい取り組みに挑戦することになった。それが、地域フィールドワークや、地域の人への提言発表や、地域貢献プロジェクトである。これらの活動を通して、より地元本耶馬溪に魅力を感じ、ふるさとを大切にしていきたいという気持ちが芽生えることとなった。これを、自分たちだけで終わるのではなく、他の人にも広げていきたいというメッセージを込めた発表になっている。



# 別府市立別府西中学校

## 【テーマ】 別府の「温泉と竹細工」を未来へつなげよう

### 【発表の見所やポイント】

#### 【別府の魅力を見つめなおす】

「別府学」で別府の魅力を学習する中で、様々な疑問や願いが見つかった。

- 1 温泉が出る環境を保護したい。
- 2 温泉以外に未来へ伝えるべきものは何だろう。
- 3 まずは温泉や再発見したものを身近な人へ伝えたい。

1年次に学校近くの「竹の製材所」で働く人から話を聞くなど、竹の魅力について学んだ際、講師の方から「別府の竹細工を若い人にもPRしてほしい」と言われた。2年次には最年少温泉マイスターの本校生徒から温泉の魅力を聞くとともに、外部から講師を招いて環境問題について学習した。また、別府市竹細工伝統産業会館を訪問し、竹細工制作を直接体験した。

見所は、温泉と竹細工の魅力をまとめたCMを使ったPR活動。



#### 【別府温泉の持続可能性・・・環境保護と観光資源】

温泉マイスターの話から、「再生可能エネルギー」としての温泉の可能性を考え、地熱エネルギーの特徴を学んだ。長所と短所を知り、周辺環境との調和が必要だと気づいた。また、「地獄めぐり」にも行き、観光地としての魅力を再確認した。

#### 【竹細工を学ぶ・・・温泉以外の魅力を発見】

ALTの先生（米国出身）が竹細工にとっても興味を示したので、海外の人にも伝えたい、という思いがわいてきた。

そこで、竹細工の歴史等を学ぶとともに、竹細工「四海波」のかご作りを体験した。

#### 【魅力を磨き未来へ・・・身近な人や若い人へPR】

- (1) どうすれば別府の魅力を伝えることができるか話し合い、CMを制作した。
  - 全校生徒にCMを見せよう。（文化祭）
  - 保護者に見せよう。（授業参観）
  - CMに英語で字幕をつけ、ALTやAPUの学生へ紹介する。（ALTや国際学生の来校時）
- (2) 温泉と竹細工の魅力や歴史をストーリー形式にして、「オリジナルすごろく」を制作した。
  - 楽しみながら学べるよう、本校の生徒や近隣の小学生に「すごろく」をやってもらおう。

## 【テーマ】 30歳になっても住みたい街、臼杵。

【発表の見所やポイント】

### ※「北中ふるさと3年計画」※

本校では「ふるさと臼杵」を愛することを目的に、1年次、2年次、3年次と学習をします。

1年次 … 「うすき城下町ウォーク」

2年次 … 「修学旅行」

大分県内の観光地との比較

・別府 ・湯布院 ・九重

3年次 … 1・2年次の課題解決とプレゼン・発信

## あふれる魅力、減る人口。

ふるさと臼杵は、自然・食文化・歴史などのたくさんの方々の魅力にあふれている。しかし15歳～65歳にかけて人口の減少が長年続いていることが、臼杵の街の課題であると考えます!!

## さて!!

## わたしたち中学生にできることは!!



# 佐伯市立東雲中学校

## 【テーマ】 我がふるさと上浦を守りたい！

### 【発表の見所やポイント】

#### 【鯛山の調査活動…鯛山・上浦のアピールへ】

本校では昨年度、「鯛山の魅力と保全をアピールしよう」のテーマのもと、「おおいとうつくし作戦推進モデル事業」とタイアップして、学校の裏山である鯛山の地形や動植物の調査を専門家の方々の指導のもと行ってきた。鯛山を調査し、魅力をアピールする過程で、同時に上浦の歴史や文化を学び、また地域の方にアンケート調査をする中で、我が故郷の現状と課題にも気づいた。そして、広く上浦の良さをアピールするために、生徒が作ったパンフレットを公共施設や地域のお店に置いてもらい、PR活動を行った。



#### 【上浦のうつくしい浜を未来へ】

今年度、課題解決に向けて「自分たちにできること」「自分たちの力だけではできないこと」をまとめたものを、「市への提言」として振興局の方々へプレゼンした。

「自分たちにできること」として、海岸の保全活動の対策を考え、地域の方々と協力して浜清掃活動に取り組んでいる。また、昨年度の取組を発展させ、海洋プラスチックごみの削減に向けて「プラごみアート」に挑戦した様子も発表した。地域に生きる中学生として、地域の方々の思いや願いをどのように受け止め、どのように行動していくべきかを考えることの大切さに気づくことができた。

# 豊後大野市小中一貫教育校朝地小中学校

## 【テーマ】 朝地の人々の出会いを通して、自分のあり方を探ろう

### 【発表の見所やポイント】

#### 【7年間の学びを土台として】

本校は昨年度、小中一貫教育校となった。しかし、以前より小中一貫を見据えて小中交流を行っていたため、様々なふるさと学習がつながり、自分たちの土台となっている。小学1年次から中学1年までの学習を振り返ると、①野菜の育て方 ②たくさんの本との出会い ③放課後トライ ④ジオパーク学習の全ての学習に朝地の方々が携わってくださった。そして、朝地の魅力を伝えるために考えたアイデアを市長さんに提案した学習。改めて気が付いたことは、私たちは地域の方からたくさんの学びをいただいているということだった。

#### 【後期最終学年で、私たちにできること！】

8年生の学習は大きく二つ。一つ目は朝地で働く方のところで仕事の経験をさせていただいたこと。働くということの大変さを感じたことはもちろんだが、地域の方たちが朝地を大切に思っている思いに気付かされた。人口が少ないからこそ、日常的に絆を大事にしながら生活をしていることに学ばせてもらった。もう一つは「ようこそ先輩」で朝地中出身の先輩の話聞かせてもらったこと。一度外から朝地を見たからこそその考え方や視点には、共感したりはっと気づかされたりした。そして、これからの自分自身について考え始めた。

来年度9年生となる私たちにできることとは何か。これまで見守ってくれていた方たちに、今度は、何か自分たちがお返しできないだろうか、来年の計画をワクワクしながら考え始めている。

# 九重町立このえ緑陽中学校

## 【テーマ】 魅力ある九重町にするための「町づくりプラン」の提言

### 【発表の見所やポイント】

#### 【3年間を通しての活動】

本校では、1年次で九重町の現状（長所や短所）について知り、2年次には九重町に住んでいる人々の生き方から学び、3年次にはより魅力ある九重町にするために「町づくりプラン」を考えて町長に提言するという活動を行ってきた。昨年度の活動の様子を紹介するとともに、本年度の3年生がさらに魅力ある九重町にするための「2022緑陽中町づくりプラン」を作成していく。

#### 【「2021緑陽中町づくりプラン」の提言より】

- ①「事業化してみたい提案」
- ②「事業化には向かないが興味深い提案」
- ③「発表はなかったが興味深い提案」

という3つの視点で九重町役場の方に投票してもらい、選んだ理由と感想を聞くことができた。特に①の提言についてはぜひ1つでも多く実現されていけば、今後の活動への意欲付けにもつながっていくはずである。



# 宇佐市立北部中学校

## 【テーマ】 ふるさとを知り、わたしたちにできる活動を

### 【発表の見所やポイント】

#### 【ふるさとクリーン大作戦】

本校では毎年、校区内にある海岸の清掃活動を行なっている。小学生や地域協議会と合同で実施しており、継続してきた活動が形となってきている。地域協議会の方も海岸を公園に変える計画をしており、そのための植樹等で年々きれいになっている。

干潮時に行うので、中学生も海岸だけでなく、潮の引いている所まで行って古タイヤなどの大きなゴミを精力的に回収している。



#### 【総合的な学習の時間でのふるさと学習】

今年度、総合的な学習の時間で、ふるさと学習を重点的に行ってきた。

宇佐市の魅力を伝えるプレゼンを個人で作成したり、特産物の生産者や地域に貢献する活動を行っている方をゲストティーチャーとして招いてお話を伺ったりすることで、地元の現状を知ることができた。

魅力と課題の両方を理解した上で、自分たちにできることは何かをテーマを決めて班ごとに考え、情報のまとめとPRや課題解決のための方法をポスターの形にした。



# 別府市立青山中学校

## 【テーマ】 別府の未来を考えよう

### 【発表の見所やポイント】

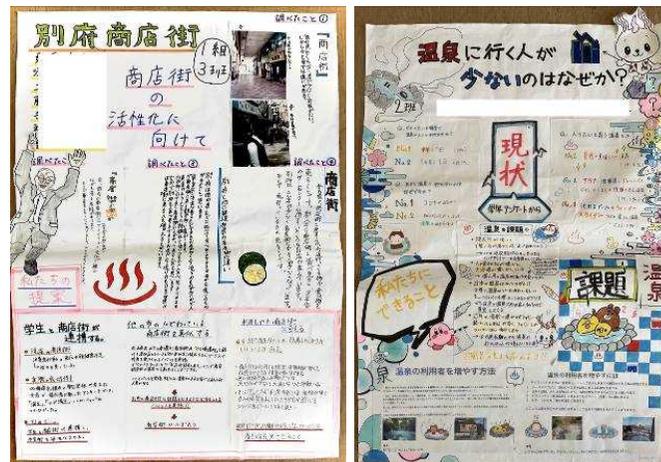
### 【ふるさと学習】

本校では昨年度までにふるさと別府について学ぶ「別府学」の学習を行ってきた。別府学の学習では、別府の街の歴史や温泉、観光地や名物など、様々な分野で別府の「魅力」を再発見し、調べた内容をポスターにまとめ、発表会を開催した。

今年度は昨年度までの学習をもとに、ふるさと別府の魅力を維持・発展させていくために、別府が抱える「課題」について考えた。そして、その課題を解決するためにどのような取り組みができるのか、未来を担う中学生自身が考える「解決策」を紙面にまとめ、ポスターセッションという形式で広報活動を行った。

### 【2年生での別府の未来について考える学習】

2年生全体でふるさと別府が抱える課題について、観光資源や産業、防災、自然環境など、班ごとに興味のあるテーマを設定して学習に取り組んだ。必要に応じて、現地へフィールドワークに赴いたり、郷土資料等を活用しながら、「課題」の発見とその解決策についてまとめた。



# 津久見市立第二中学校

## 【テーマ】 ふるさと津久見と私たち

### 【発表の見所やポイント】

#### 【職場体験で学んだことの発表・CM作成】

1年次

- ・地元の職場を訪問し、仕事内容や困ったこと、願いなどについてインタビューした。  
→津久見の産物や良いところをもっとたくさんの人に知ってほしい、という願いが印象的だった。

2年次

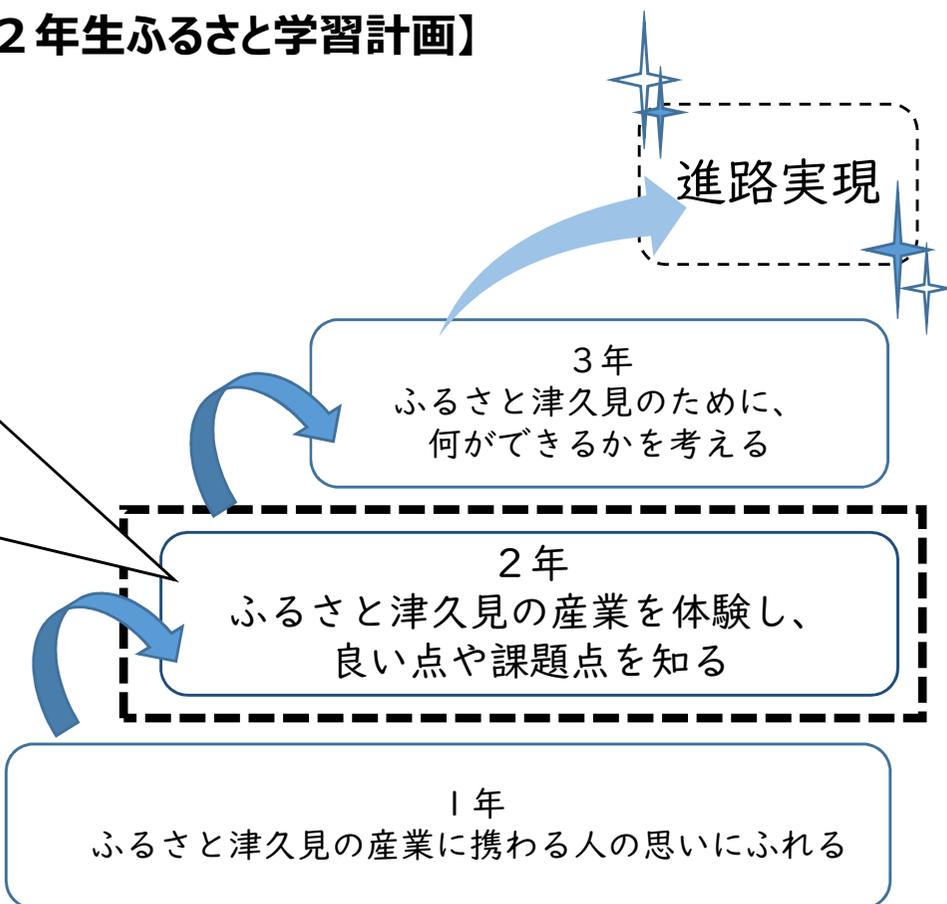
- ・実際に地元の職場で働くことを体験させていただいた。
- ・1・2年生の体験をまとめ、津久見をPRするCMを作った。

3年次

- ・これまでの学習を踏まえ、自分たちは津久見のために何ができるのか考え、実践していきたい。



#### 【2年生ふるさと学習計画】



# 竹田市立都野中学校

## 【テーマ】 みやこの 宮處野神楽～私たちと地域の架け橋～

### 【発表の見所やポイント】

#### 【発表に至るまで】

本校では昨年度から、地域学習の一環として、宮處野神社についての学習を始めた。ただの調べ学習だけではなく、その神社の大祭である神保会（じんぼえ）の活動に参加するために、神楽に取り組んできた。今まで大切に引き継がれてきた伝統や地域の人々の努力、思いにあふれる活動を通して、地域の伝統文化の大切さを学び、自分自身がこの都野地域の一員であることを自覚することができた。神楽の披露については、運動会や文化祭などの学校行事だけではなく、昨年度は大分県中文連の竹田大会において、また今年度は、くじゅう花公園で宮處野神楽を舞うことで、自分たちの誇りである神楽を多くの人に知ってもらうことができた。

#### 【宮處野神楽について】

宮處野神楽は明治初期には地域に定着していた。昭和47年に神楽保存会を開設され、都野全体に広がっていった。現在は竹田市全体の様々な地域の神楽が集まる研修会が年に1回開かれているが、後継者不足は否めないところである。

神楽保存会の方に教えていただいたこと、そしてこれまで学んできたふるさとの大切さを、自分たちがしっかり伝えていくという気持ちを持って、ポスターセッションの準備をしてきた。当日は神楽の衣装を着て神楽の紹介をする。



# 日田市立津江中学校

## 【テーマ】 津江地区の未来へ、今後私たちができること！

### 【発表の見所やポイント】

#### 【地域との触れ合いを大事にした学習活動】

平成26年4月に施設一体型小中一貫校として開校した津江小中学校。

全体の7割がスクールバスによる通学で、地域と触れ合う機会が少ない環境にあります。それ故に、小中学校ともに地域を学習の場とし、また地域イベントに参加することで地域全体を盛り上げています。

その中で、

- 地域の職場での体験学習で学んだこと
- 中津江ふるさと祭りと上津江産業文化祭に参加し、ダンスパフォーマンスを披露したことなどを発表します。

#### 【アンケート実施】

7年生と8年生、そして地区振興協議会の方を対象として、以下の3点についてアンケートを実施しました。

- 地域の良さや魅力は何か。
- 地域が抱える課題は何か。
- 地域のために何ができるか。

生徒対象のアンケートでは、家庭で保護者の方と一緒に考えてもらいました。

同年代の中学生が何を考え、地域の方が何を感じているかを明らかにしたうえで、テーマにある「今後私たちができること」について、7年生と8年生とで協議したことを発表します。